

### 1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773100516		
法人名	医療法人大久保クリニック		
事業所名	グループホームおおくぼ		
所在地	福島県田村市船引町船引字扇田232-1		
自己評価作成日	21年8月31日	評価結果市町村受理日	平成21年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成21年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本当の家族といふときと同じ安らぎを感じてもらえるような雰囲気づくり。残っている力を奪いとらない日々の支援。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2002年に開設した当初からの利用者もおり、職員との信頼関係は良好であり、「家庭的な雰囲気であり楽しみのある生活」を基本理念に掲げ実践している。また、入所もない帰宅願望の強い利用者にも、事業所の生活に順応できるように利用者の意向を尊重し、適切なケアに努めている。また、法人は職員の資格取得に対しても積極的であり、職員の協力のもと、勤務体制を考慮しながら研修について協力している。職員はそれぞれステップアップの目標を持ち、日々研鑽している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	棟内数ヶ所と居室に掲示して、職員が確認してケアサービスにつなげている	地域密着型サービスを踏まえた理念となっている。全職員が理念の実践に努めており、「本当の家族といるときと同じ安らぎ」をモットーに支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の共同作業(草刈)、お祭りに参加している	ハモニカ演奏、版画、笛等のボランティアを多く受け入れており、高校生は清掃のボランティアに来ている。また、近隣の子どもたちが毎日のように遊びに来ており、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	避難場所を会議メンバーと話し合い検討し決定した	運営推進会議は昨年より開催しているが定期的な開催とはなっていない。構成員は包括支援センター職員、民生委員、近隣住民、利用者の家族等で、内容は事業所の行事や外部評価の結果等を報告しており、委員からも意見が出されている。	第1回の運営推進会議の際に会議の意義や目的等を説明し、理解が得られているので、年間行事として計画され、年6回の開催に向けて努力されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者からの問い合わせがあったり、施設からの質問も、気兼ねなく行なっている	利用者の入居状況やスプリンクラーの設置等について相談や問い合わせ等を市の担当者とは常に連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、それに基づいて拘束をしないにケアに取り組んでいる。	全職員が身体拘束の弊害を認識しており、拘束のないケアの実践に努めている。現在不穏な状態の利用者がいるが、玄関の施錠はせず、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修参加の意欲をもち、虐待を行わないケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方が、必要と認められる場合は対応していきたい。今後は一般職員の研修参加も積極的にすすめていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、面会時等意見を聞いて、反映している	家族の面会は多く、毎日面会の家族もおり、面会時や状況報告の際に家族の要望等を把握している。出された意見等は運営に反映させる体制となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事ある毎に、話し合い代表者につなげている。今後、より多くの件についての反映につなげていく	職員の意見や提案を聞く体制となっており、法人では職員の待遇や資格取得に対しても要望に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度、2名の職員が正職員に登用		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務表も研修会に出やすいように対応している等、研修会に出やすい職場環境づくりができています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、交流会に出席し情報交換している。相互訪問を実現していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时、入居時、ケアプラン作成時、本人の希望をきいて安心して生活できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントで得られた情報、希望を取り入れてケアプランを作成している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで優先事項を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者の方から、教えてもらうこともある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日、面会に来られる家族もいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友達が尋ねてきたり、外泊され馴染みの方に会われたりしている	利用者の知人がボランティアとして訪問したり、馴染みの美容室に行ったりして、いままでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席を考慮したり、職員が話しの輪に入り一人ひとりの方全てに話が届くよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅近くの特老に移られた方のところへ面会に行き経過確認を行った		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメントを行っている。また、日々の話題の中でつかみとり、ケアプランに反映している	日常生活のかかわりから、利用者の真意を汲み取り支援している。また、家族からも利用者の生活の希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を取得し、環境変化の緩和に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その都度、確認しながら行い、変化が見られたときにはケアプラン等の変更を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	収集した情報をもとに職員全員で検討し、ケアプランを作成、再度家族に確認してもらっている。	利用者及び家族等の意向やアセスメントをもとに全職員で話し合い、各々の気づきや意見を活かし利用者の生活の解決課題をケアプランに組み込んでおり、利用者の状態に即したサービス計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時に気づいたことは、すぐに話し合い必要時は、申し送り帳に記入し、職員間での共有につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランの変更は、随時行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	皮膚科、眼科、歯科等、本人又は、家族の希望された医療を受診している	利用者及び家族の希望する医療機関の受診を支援しているが大半が隣接する運営母体の医療機関をかかりつけ医としていて、週2回の定期訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	大久保クリニックから訪問看護を受けている。介護職、看護職スタッフが健康状態を常に報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を実施。家族と共に入、退院時の説明を職員も受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた当面の家族の意向について、話し合っている	入居時に事業所の「看取りに関する指針」を説明し、「看取り介護についての同意書」で家族の同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講習会を受講。貼紙等にて確認をつづけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元行政区長、組長、民生委員の方の了解を得て、協力体制ができている	防災訓練は年1回、消防署の立会いの下で実施している。地域の区長や組長、民生委員の協力体制は整っているが訓練の参加には至っていない。又、災害に備えた食料品等の備蓄はされていない。	防災訓練は様々な場面を想定して繰り返し行い避難の習慣を身に付けておくことが望まれる。なお、地域住民に協力を依頼し、災害時に協力が得られる体制を整えられることが望まれる。また、災害時の備蓄を早急に準備されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を重視した声かけを心がけ、事ある時は、話し合いをもっている	全職員が言葉掛けや書類管理など、プライバシーの確保に努めている。職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に心がけている。今後、ホームだよりを地域へ配布する予定がある。	ホーム便りに掲載する写真は家族等の同意を得ることが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いを引き出せるよう目的をもった、声かけを行なっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度、声かけし希望されたスタイルで過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の意向も確認し、個人の好まれる美容室を利用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	すり鉢でゴマをすって、相談しながら味付けを行い、味の批評をしながら食事を摂っている	食事の準備や配膳等は、利用者と職員が一緒に行なっている。利用者と職員は同じ食卓を囲み、味付けや旬の食材等を話題にしながら、笑顔で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を確認し状況に応じて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前のうがい、起床時、入床時の口腔ケアを行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のシグナルに注意して観察して排泄パターンをつかみ、個人の排泄パターンで介助している	排泄は、利用者のサインや排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を支援している。利用者の約半数が入居後、数年経過しているにも拘らず入居前と同様に布パンツで過ごし、排泄の自立を維持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日ごろから、水分摂取、繊維の多い食物を摂り、状況によっては冷牛乳等を飲用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、決まっているが状態に応じて対応して入浴している	入浴は毎週2回としているが、希望により何時でも対応できる体制となっている。又、健康状態によっては居室での足湯に切り替えている。気持ちよく入浴を楽しむ利用者もいるが、拒否をする利用者もいるのでその誘導のタイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールにたたみ敷きのスペースが有り、いつでも休めるようになっている。就寝前は、談話し穏やかな状態で安心して、休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	研修に参加し、理解を深めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝茶を煎れてもらったり、テーブルを拭いてもらったりして役割をもって生活している。天気の良い日には、戸外に出て野菜の収穫をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお祭り、神社の参拝等に出かけている	散歩やおやつの買い物、行き付けの美容室へと日常的な外出の他、四季に合わせたドライブやお花見、野外での芋煮会など、利用者の気分転換やストレス解消となる外出を支援している。外出時は女性の利用者はお化粧して身だしなみを整えるのも楽しみの一つになっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いはホームで管理しているが、お祭り等では個人でお金を持ち買物をした		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話に出たり、家族からの手紙に同封されていた写真を居室に貼ったりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾って楽しんでいる	大きな引き戸の玄関から共有空間は段差がなく一体化された造りとなっており、開放感に溢れている。又、壁には折り鶴や行事の写真が貼られ、楽しい行事の思い出を振り返る事ができる。空間には大きなベンチ等が置かれており利用者が思い思いの場所で寛げる工夫がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ホール、和室と広いスペースを有し、気のあった利用者さんは近くの席にいたり、個人の好みに合った過ごし方ができている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	写真やお便り、花等を飾ってあり、個人の好みの部屋になっている	自宅から持ち込まれた馴染みの生活用品が置かれ、それぞれの個性が活かされ居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内全面バリアフリー、手すりが設置されていて安全に生活できるようになっている		